

水産

農林水産部 水産局 漁業資源課



植木 誠

Ueki Makoto

平成26年度
採用



異動経歴

H26年採用 水産総合研究センター 内水面水産研究所
H29年 水産総合研究センター 種苗生産研究所
R2年 農林水産部 水産局 漁業資源課

Q1 あなたが採用された職種の魅力について教えてください。

水産業に特化した県職員生活を送ることができるので、業務の中で身に付けた専門知識をずっと活用していくことができます。また、漁業者の方たちと時間をかけて信頼関係を構築でき、県内水産業の振興に貢献できる点も魅力的です。

Q2 仕事の内容とやりがいを感じる瞬間について教えてください。

漁業資源課では、資源管理型漁業や栽培漁業の推進、漁場環境保全の業務を扱っています。その中で私は、内水面漁業・養殖業の振興や養殖現場の魚類防疫対策を担当しています。

県内には様々な河川や湖沼があり、内水面漁業は地域振興や活性化に大切な役割を果たしています。漁業者や研究所と協力して内水面漁業の振興策を考える中で、イベントの開催など、成果が形に結び付いた時にやりがいを感じます。

Q3 千葉県を選んだ理由を教えてください。

千葉県は三方を海に囲まれ、県境には利根川や江戸川といった大河川が流れていることから、地域ごとに特色ある水産業が営まれており、県外出身の私にとって憧れの場所でした。

子供の頃から大好きな海の生き物に関係した職業、学生時代に学んだ水産学の知識を活用できる職業として都道府県の水産職員を考えた際、真っ先に千葉県で働きたいと思いました。

Q4 職場の雰囲気について教えてください。

業務の悩みがあっても上司に相談がしやすく、風通しの良い職場です。また、水産職は人数が少ない分、職員同士の結びつきが強く、周囲から手厚いサポートを受けることができますので、心強く感じています。

海や魚が好きな人ばかりなので、休憩時間中の雑談にも魚や釣りの話題が次々登場します。

Q5 仕事をする上で心掛けていることを教えてください。

水産業は、生物や自然環境を相手にした不確実性の大きい産業であると同時に、国の法令や関係者の協議や調整により定められた、厳格なルールの上に成り立つ産業でもあります。

そのため、会議や協議の場では、現場の実態を最もよく把握している漁業者の方たちの意見に耳を傾け、現場の声を尊重するとともに、関係法令やルールを熟知して適切な判断や助言ができるように心掛けています。

Q6 仕事の中で難しく感じていることや苦勞したこと、大変だったことを教えてください。

水産職員は行政、普及、研究の現場を行き来して経験を積むことになりますが、異動直後の知識が浅い期間の業務は大変だと思います。私も研究から行政に初めて異動した際は、新たに身に付けなければならない知識が多く、苦勞したことを覚えています。

しかし、どの職場でも、上司からの確な助言を受けることができるので、異動は新たな知識を身に付ける機会と捉えて、経験のない業務にも積極的に取り組むようにしています。

Q7 あなたの考える千葉県の魅力を教えてください。

千葉県は首都圏にありながら、全国有数の水産県です。また、地域や浜ごとに特色ある文化、漁業が根付いており、県内で様々な美味しい水産物に出会えるところが魅力です。

Q8 休日や退庁後の余暇の過ごし方について教えてください。

水族館や博物館が好きで、時間をつくって県外に遠征をすることもあります。県内には、全国でも飼育事例の少ないシャチやシロイルカなどの海棲哺乳類に出会える水族館があるので、こちらにも何度も足を運んでいます。

Q9 今後の目標や挑戦してみたいことなどを教えてください。

漁業者の方たちとの対等な議論や意見交換、振興策の提案ができるように、今後も様々な所属の業務を経験して、水産業に対する幅広い知識を身に付けたいと考えています。

Q10 受験者へのメッセージをお願いします。

水産業は、地域の経済・社会・食文化を支える重要な産業です。様々な視点から水産業振興に携わる水産職員として、一緒に千葉県を盛り上げましょう。

ある一日の流れをピックアップ

- 8:30 出勤・メールチェック
- 9:00 研究センターとの情報交換、研究の進捗状況を確認
- 9:30 課内説明用資料の作成
- 11:00 研究センターの調査結果について課長に説明

- 12:00 昼食
- 13:00 漁業協同組合主催の会議に出席
- 16:30 会議内容の報告、打合せ記録の作成
- 17:15 退庁

